



あそびあランドでは、今、生き物とのふれあいが流行っています。ヘビにイモリにカエルなど人間同士のふれあいの代わりに、生き物を通してコミュニケーションを取っている姿が見られます。

最近では、どこの施設も企画運営を前向きに検討していますが、昨年は、屋内施設の開放が感染対策のため自由に行えない中、幸いあそびあランドは「外の遊び場」ということもあり、感染予防を十分にとった上で、早めに開放することができました。遊ぶための場所が限られた社会であそびあランドは、開園すること自体が一番の活動だと考えました。

昨年6月に開園を再開し関係者の皆様、来園してくれる親子の協力のもと今も例年同様の開園状況が続けられています。平日でも100名近くの親子が居場所を求めて来園している状況です。

このコロナ禍で職員も来園者も「場所」という物の必要性だったり、そこにかかわる人の意識がいかに大事か実感しているようです。できないからやらないのは簡単です。できない中でも、やれる方法はないのか模索することが我々に求められているのではないのでしょうか。あそびあランドに携わる職員一同、子育て支援のプロとして意識を持ち、遊育の考えのもと、遊びにまじめに取り組んでいきたいと思えます。

あそびあランドに求められていることは子育て支援だけではなく。開園当初より、中高生の居場所としての活動も行っていましたが、今その必要性が急激に増えているように感じます。大変な社会ですが、これから大人になる若者が楽しくいきいきと生きていけるよう力になれる場所にしていきたいと思えます。

(齊藤翔太)



## キックオフに向けて 準備会スタート



昨今の8050問題を危惧し、ひがしねスタイルの「遊育」「共育」を柱とする子育て支援をベースに家庭教育と若者支援を両輪とする「家庭教育・若者支援プロジェクト委員会」のキックオフに向けた準備会がスタートしました。

菊地理事長、各委員は、あそびあランド、けやきホール、子育て支援センターを、遊びを通して人間の土台を作る場であることを再確認しました。

また、つまづいた時に困難を乗り越える力を持つてほしい、子どもにとっての最善の利益(Well-being)、若者支援を不必要にするには、「子育て」から子どもの主体性を育む「子育て」の家庭教育支援が必要との共通理解を深め、広めることなど、人が人を作っていくということを実感する、熱い思いが話し合われました。

今後は、出された意見をもとに社会で、地域で、みんなで人を作っていく「クリエイトモデル」を構築しながら、クリエイトひがしねらしく、まもなくキックオフ！(結城栄子)

## 編集後記

★新型コロナウイルスの感染が広がり始めて2年目を迎えています。この間、両施設の活動も閉鎖や事業中止に追い込まれてきました。そんな中で、「繋がり・寄り添い・支え合う」活動を、そして「心結び合う新たな場を」として、二回にわたりスタッフからの原稿を寄せていただきました。コロナ後の飛躍に向けての決意が込められています。

★わがNPO法人設立準備から17年間にわたり指導に心血をそそいでこられた丹野理事が退任することになりました。コロナ禍で理事会もオンライン会議に切り替わり、一堂に顔をあわせることもままならない中での退任、とても残念です。これからは「名誉理事」としてかかわっていただけるとのこと、長い間本当にありがとうございました。(M)



あそびあランドを流れる  
小川で川あそび

## 新しい風に吹かれて

新型コロナウイルス  
感染防止対策委員長 高橋京子

昨年来の新型コロナウイルスは、国境を越えて世界中の国々にあつという間にまん延しました。私たちは国境や人種の垣根をとびこえ否応なく地球人としての運命共同体を自覚させられています。しかしその一方で、感染拡大防止のためのソーシャルスタンスや集会・宴会の自粛などで、身近な人間関係が疎遠になってしまいました。これまであたりまえだった行動が制限され、人々の生活様式も変わらざるを得ない状況にあります。

このような状況の中で、子どもたちも外遊びやスポーツの機会が著しく失われ、つらい日々を強いられてきました。友だちと会う機会も、一緒に遊ぶ機会も減ってしまったこの一年数ヶ月、どんな毎日をご過ごしていたでしょうか。子どもにとっての一年は、あつというまに過ぎていく大人の時間感覚とは比較にならないほど長く、成長にとってかけがいのない時間です。私

たちは感染予防対策を徹底しながら、その中で出来ることを模索しつつ、子どもたちの健全な成長を願い運営を続けております。

制限のある中でも、けやきホールやあそびあランドでは、汗だくになりながら夢中で遊ぶ子どもたちの姿があります。陽の光の中爽やかな風に吹かれながら遊ぶ子どもたちの姿に、まだ先の見通せない中ですが、コロナ後を生きていくたくましい生命を感じ、まわりの人々に勇気を与えてくれます。古代から人類はウイルスとの戦いだったと言われてます。協力し合いながらコロナ禍を乗り越えたその先の未来を、これまで以上に明るく喜びに満ちた世界にしたいものです。

ここにきて、ようやくワクチン接種がはじまりました。治療薬が開発され、もとどおりの生活が一日も早く訪れることを願ってやみません。



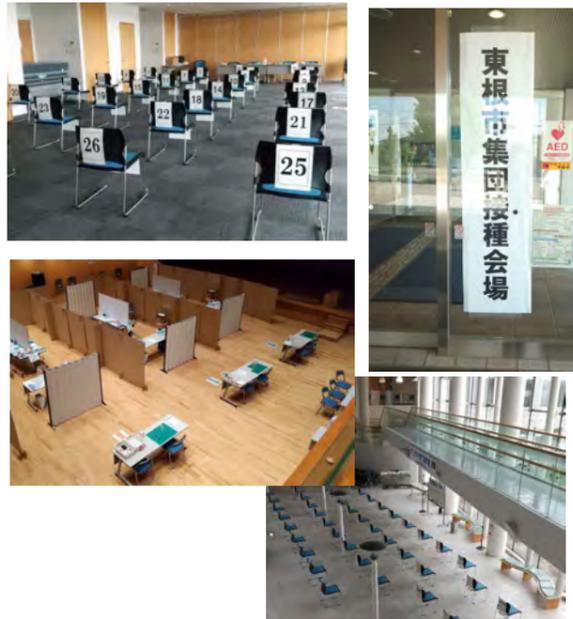
私たち施設コーディネーターは今年度の重点目標を、①タントクルセンターの顔として、来館された方々に親しまれ、頼りにされる施設コーディネーター、②来館者に快適安全に利用してもらうための業務の質の向上、③職員同士がより良い職場環境で、仕事に対する意識を高めるためのスキルアップ、の三つを掲げてスタートしました。コロナ禍のなか目標達成に向けて、接遇の向上=来館者が何を求めて来たのかを迅速にとらえ、丁寧な対応が出来るように休館日の研修会を充実させています。

タントクルセンターが新型コロナウイルスワクチンの東根市集団接種会場となりました。5月19日から92歳以上の方を皮切りに接種が始まり、これまであまり来館されなかった高齢者が、多数来館されるようになりました。歩行困難者へは先回りした車椅子の配置など、駐車場で車を降りた時からの目配りなど、これまで以上の配慮も必要となっています。

ワクチン接種のために来館された方々の検温や誘導など、集団接種がスムーズに、そして、安心して接種できるように、誠心誠意、まごころと笑顔でサポートさせていただいています。

ワクチンの集団接種が始まったことで市民の方々とふれあう機会が今まで以上に多くなりました。来館される赤ちゃんから高齢者まで、市民と行政との「架け橋」となり、クリエイティブがしねの緑の下の力持ちとなれるよう、目配り、気配り、心配りを心掛けていきます。

(山田容子)



見えないウイルスとの闘いは続いています。感染対策を講じながら子ども達はのびのびと遊び、大人はゆっくり見守れる場所となるようアイデアを出し合いながら運営しています。今年度目標にしているのは、けやきホールが特別な時にだけ来る場所ではなく、子育てする親子の日常の「居場所」になることです。昨年度、大型遊具の使用制限があり思う存分遊ぶことができなかった子ども達。これまで我慢した分、今年度は子ども達の遊び心が爆発！仲間と一緒に勇気が湧いてくる、1才児でもどんどん大型遊具に挑戦しています。時には泣いたり、怒ったり、ケンカをすることもありますが、そんな子ども達の姿を大人達は穏やかに温かな眼差しで見守ってくれています。

けやきひろばも1年ぶりに再開しました。けやきホールだからこそできる遊びを地域のボランティアの方や来館者の親子と一緒に楽しんでいます。私たちスタッフが用意周到に場を整えるのではなく、その場にいるみんなで一緒に場を作っていくと思えば「面白い」が生まれ、子ども達の成長や発見、笑いに包まれます。みんなで笑えるってとても幸せですね。

あと、もうひとつけやきホールが目指しているのは、来館者が活躍できる場です。子どもだけではなく、大人の方にもけやきホールでいろんなことに挑戦してほしいという願いがあり、大人が活躍できる機会をつくっていきたくて考えていたとき、一人のお母さんが「寸劇をしたい！」と手を挙げてくれました。大人の「やってみたい」も叶えたい！早速、朝の絵本と体操の時間に来館した親子を寸劇で楽しませてくれました。

けやきホールは大人も子どももキラキラできる「居場所」でありたいと考えています。(高橋幸江)



# 心結び合う新たな「場」を

経験に学び、スタッフ一体となって心をひとつにし  
新しい形を模索しながらスタートしました  
共に心が結び合う「子育て支援」を目指します

現在子育て支援センターでは、赤ちゃんの月齢ごとに分けて、赤ちゃんの成長過程を学ぶ子育てサロン、多くの親子の「居場所」づくりと地域の方との関りを大切にするために地区の公民館に出向いて開催しているおひさまサロン、県外から転入してきた親子への県外出身サロンと、人と人が繋がり、心が通い合う雰囲気を大切にサロンを開催しています。

今年度は、もっともっと多くの方に「子育て支援センター」の存在を知ってほしいとの願いから、子どもが生まれてからではなく、その前の妊娠期からの支援にも力を入れていきたいと考え、妊娠中の期待や不安を共有し、悩みや不安の軽減を目的に、妊婦中の体のケア、赤ちゃんの抱っこの仕方をお伝えする、育児講座「ようこそ妊婦さん」を開催予定です。一人でも多くの方が出産、子育てに安心して臨めるようサポートしていきます。

感染症が心配、車がないなどの理由でゆうぎしつに来館できない方もいらっしゃると思います。昨年度から力を入れている電話相談には、外出できない方はもちろん、雪が降り運転が心配、仕事が休みの土日に相談したいなどさまざまな方からの利用がありました。今後も多くの方の悩みが軽減でき、安心して子育てができるように電話相談対応の保育士、栄養士のスキルアップをしていきます。

また、来館できない方が他の子育てママやスタッフとの関りを持つことを目的にオンラインでのサロンを計画中です。来館するだけではなく、オンラインを取り入れ、来館者のニーズに合わせ多くの親子と繋がっていかれたらと思います。(植松朋美)



東根市ファミリー・サポート・センターは、身近な地域で子育てのサポートをしたい人と利用したい人との住民の架け橋になるために、信頼される相互援助活動をめざしています。

今年度は、子育て支援拠点施設(けやきホール、あそびあランド、ゆうぎしつ)で安心して子どものあずかりが実施できるように、連携をとりながら施設内でのあずかりを促進し、より一体的な支援の拡充をはかります。そして、なかなか利用に踏み出せない親子にも安心して利用してもらえるように、子育て中の親子が集まる「けやきホール」や、地域に向いての「おひさまサロン」「あそびあカーがやってくる！」などに協力会員とアドバイザーが定期的に出向き、ファミ・サポ活動のPRを行う「協力会員が来る！ファミ・サポ活動伝言隊」を開催しています。子育て中の親子に地域の中に頼れる存在があることを知ってもらい、利用につなげていきたいと思えます。また、子育て中の方にもファミ・サポ活動に関心をもってもらうことで、利用する側とあずかる側の両方を兼ねた両方会員を増やし、あずかる側の会員不足解消につなげていきたいです。

昨年に引き続き、コロナ禍の特別措置として、新規で登録した協力・両方会員が活動出来るようにファミ・サポの仕組みや活動の留意点を内容とした基礎研修会を開催しています。また、協力会員のスキルアップ、フォローアップとしてオンラインでの研修会に挑戦していこうと計画しています。

今年度も利用・協力会員とも感染対策を充分に行いながら、安心・安全に『あずける・あずかり』が出来ようサポートしていきます。(渡辺友美)

